

和歌山県教育センター学びの丘 広報誌

まなぶだより



学びの丘イメージキャラクター
まなぶ

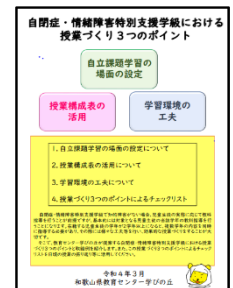
インクルーシブ教育システムの理念に基づいた特別支援教育



昨年12月、文部科学省が通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査結果を公表しました。質問項目は平成24年実施調査と同じく①学習面（「聞く」「話す」「読む」「書く」「計算する」「推論する」）、②行動面（「不注意」「多動性-衝動性」）、③行動面（「対人関係やこだわり等」）であり、全国の公立小学校・中学校・高等学校（全日制と定時制）の通常の学級に在籍する児童生徒を対象としました。「学習面又は行動面で著しい困難を示す」との回答があった児童生徒の割合は、小学校・中学校では8.8%（小学校10.4%、中学校5.6%）、高等学校では2.2%であり、通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒の実態と支援の状況が明らかとなりました。

こうした背景を踏まえ、私たち教員には障害のある児童生徒を含め、多様な児童生徒が通常の学級に在籍していることを前提として、全ての児童生徒が高い学習成果を得られるよう分かりやすい授業づくりを進めること、そして、全ての児童生徒が安全・安心に学ぶことができる多様性を尊重した学級経営が求められています。

学びの丘ウェブページには、特別支援教育の参考となる資料を掲載しています。特別支援教育に携わる教員のみならず、通常の学級を担当する教員も、有効な資料として活用することができます。全ての児童生徒が自分らしさを発揮し充実した学校生活を過ごせるよう日々の授業づくりや児童生徒との関わりに役立てていただきたいと思ひます。



『健康的で快適な学校環境を目指すために』 ～令和5年度健康教育関係職員研修（新規採用養護教諭研修④）～

当センターでは、健康教育関係職員研修として、今年度は養護教諭及び栄養教諭を対象とした研修を実施しています。

7月7日（金）に実施した新規採用養護教諭研修④では、和歌山県薬剤師会 山下常務理事による「学校環境衛生について」と題した講義及び演習がありました。

学校の換気、採光、照明などの環境を適切に保つための視点、医薬品の取り扱い方や注意点について具体的な説明があり、受講者は日々の取組と併せて学びを深めることができました。

受講者からは「子供たちの健康や学習を保障していくに当たり、学校



講義の様子

環境衛生を適切に保つことが重要であると学びました。特に、エアコンを用いて温度管理を行っていますが、換気についても十分実施されていることが大切だと改めて感じました。」「学校薬剤師との連携の仕方などについて、教職員間で共通理解を図り、学校環境の整備につなげていきたいと思ひます。」等の感想が寄せられました。

学校内の環境衛生を維持するためには、養護教諭のみが配慮・対応するのではなく、他の教職員や管理職、そして、学校薬剤師など外部の関係機関と協力しながら取り組んでいくことが重要となります。



協議の様子



『つなぐ、動かす、創造する』組織マネジメント能力の育成 ～ミドルリーダー育成研修～

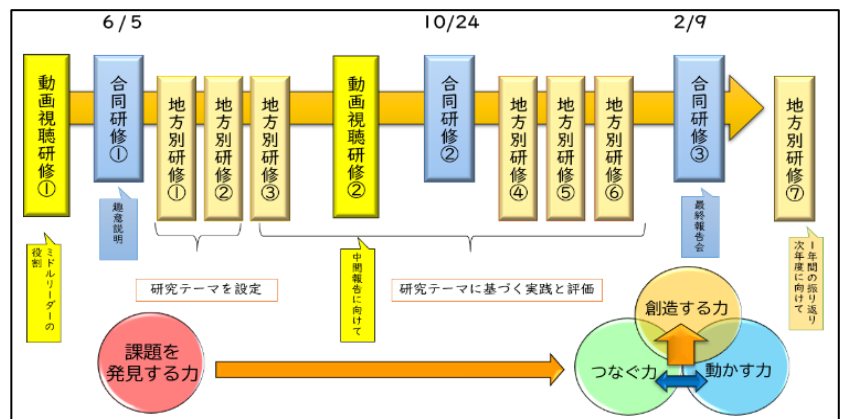
当センターでは、学校を支え地域の教育を担うことが求められているミドルリーダー世代の教員を対象として、「ミドルリーダー育成研修」を実施しています。県立学校や市町村教育委員会から推薦された32名の教員が校種（小・中・高・特）を越えて地方別のチームを8つ編成し、「つなぐ」「動かす」「創造する」というテーマの下、年間12回（動画視聴2回、集合研修3回、地方別研修7回）の研修に取り組んでいます。

本研修の最大の特徴は、内容やその方法は受講者が主体となって考え、運営するということにあります。SWOT分析等により所属校の強みと弱みを明らかにする中で、「今学校で求められていること」や「やるべきこと」そして「それらに対して何をどこまで改善していくのか」を考え、実行に移します。地方別の各チームで設定した研究テーマの追究や取組の実践を通して、ミドルリーダーとしての資質・能力を身に付けていきます。

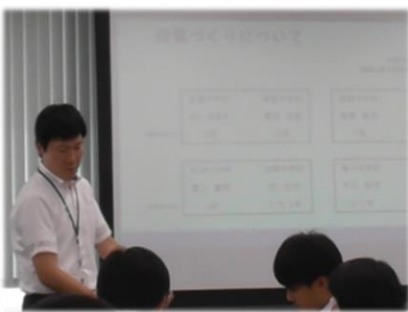
今年度については、6月に集合研修①を終え、現在は各地方に分かれて研修を行っているところです。具体的な課題を設定し、その解決を目指した協働的な取組は、学校の組織力の向上につながります。各受講者の今後の実践が期待されます。



研究テーマについて協議する様子



教員の指導力向上につながる授業提案を目指して ～指導力向上に係る研修（中学校数学科）～



中核教員研修における協議の様子

本研修は、学力向上プログラムの一環として実施する、指導力向上に係る中学校数学科の研修です。昨年度の国語科に引き続き、今年度は数学科の授業を担当している中学校教員を対象とし、学力向上の取組について共通理解を図るとともに、教員一人一人の指導力・授業力を高めることを目的として実施しています。

本研修は大きく3つの研修で構成しています。1つ目は、県内8地方において提案授業を担当する教員（各地方1名）を対象とした「中核教員研修」。2つ目は、中学校数学科を担当する全ての教員を対象とした「全体研修」。3つ目は、各地方に分かれ中核教員の授業を参観し協議を行う「地方別研修」です。6月29日に実施された中核教員研修①では、本県における数学科の現状と課題を把握した上で、どのように授業を改善していけば良いのかを演習や協議を通して考えました。受講者からは、「生徒の課題を常に念頭に置き、指導していきたい」「各単元で付けたい力を明確にして、指導方法や発問などを考え、『数学的な見方・考え方』を生徒自ら働かせることができる授業をしたい」等の声が寄せられました。

中核教員は、全3回の中核教員研修の中で授業づくり等について協議します。そこで確認した数学の問題発見・解決の過程等を意識して、地方別研修で提案授業を行います。これからの時代を担う子供たちが身に付けるべき資質・能力の向上に資するために、不断の授業改善による指導力・授業力の向上が求められています。



学びの丘の中庭から『夏空』→